

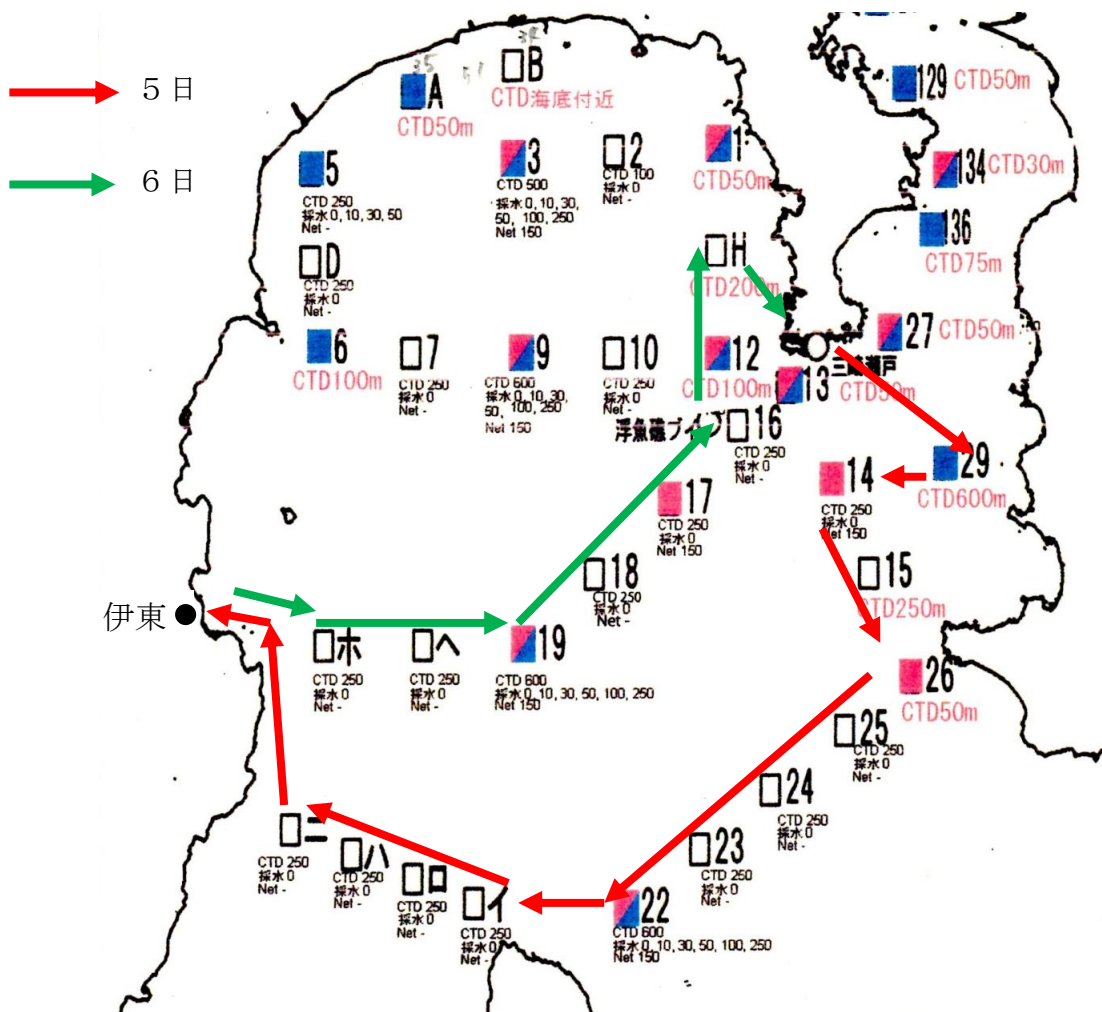
H27年11月5~6日 沿岸定線観測を実施しました。

江の島丸は、毎月、大島以北の東京湾および相模湾の41定点で水温・塩分・流向流速・透明度・クロロフィル量・DO(溶存酸素量)など様々な項目を観測しています(観測項目は定点によって異なります)。江の島丸による海洋観測データは数十年に渡って蓄積されているきわめて質の高いもので、漁況予測など様々な研究の基礎資料として欠かせません。

今後、地球温暖化の研究が進むにつれて、過去の状況を正確に伝える江の島丸の観測データは更に貴重なものとなるでしょう。

今回は、平成27年11月5~6日に行った沿岸定線調査の様相を写真で紹介します。

5日に三崎港を出港しSt(ステーション)29より観測を開始、東京湾口と相模灘を横断するようにStニまでの計12点の観測を行った後、静岡県伊東港の港外で錨泊し、翌6日はStホより観測を開始、StHまでの計8点の観測を終え三崎港へ帰港しました。



5日の朝、岸壁で観測機器等を積み込み三崎港を出港します。



城ヶ島大橋をくぐり
東へ向かいます



三崎港を後に
東京湾口の St29 へ

St29 より観測開始。

東京湾の出入口に位置する場所なので観測中の短い時間にも多くの船舶が近くを航行します。



*貨物船



*自衛艦



CTD 観測機の揚げ降ろし

この観測機で水温、塩分、溶存酸素を1 m間隔で最大水深 600mまで測定します。

観測機に取付けた採水器で任意の水深から採水することもできます。

観測機を収容後、採水します。



採水器

CTD 観測機



採水瓶

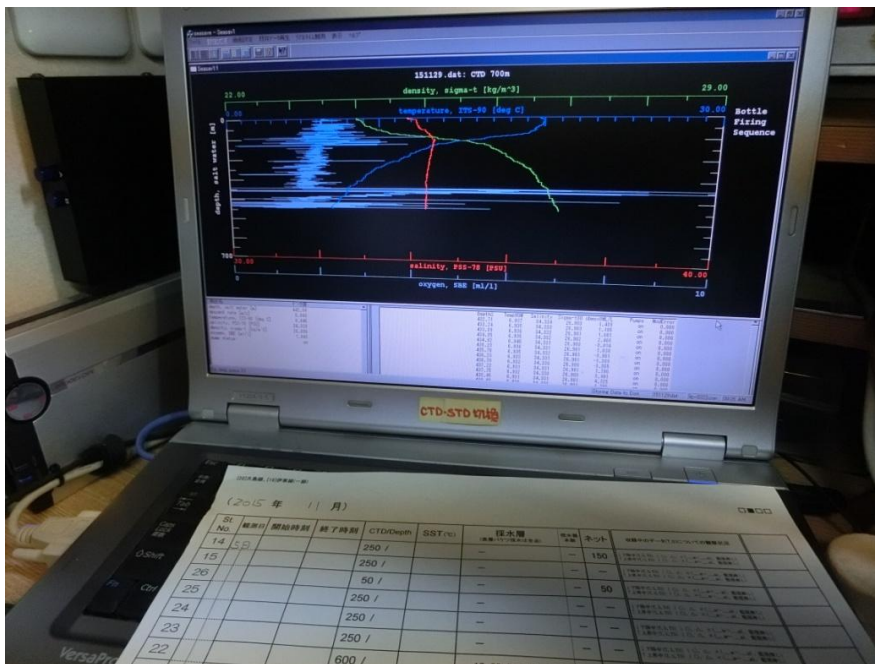


採水作業

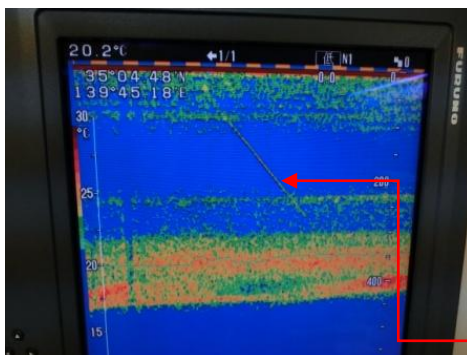
St29 では

0m,10m,30m,50m,
100m,250m と6層から
採水します。

採水は通信長が無線室から採水器を遠隔操作して行います。



データ取得中。



CTD 観測機は魚群探知機にも映ります。

房総半島洲崎沖の St26 に到着しました



遠くに見えるのが
大島です。

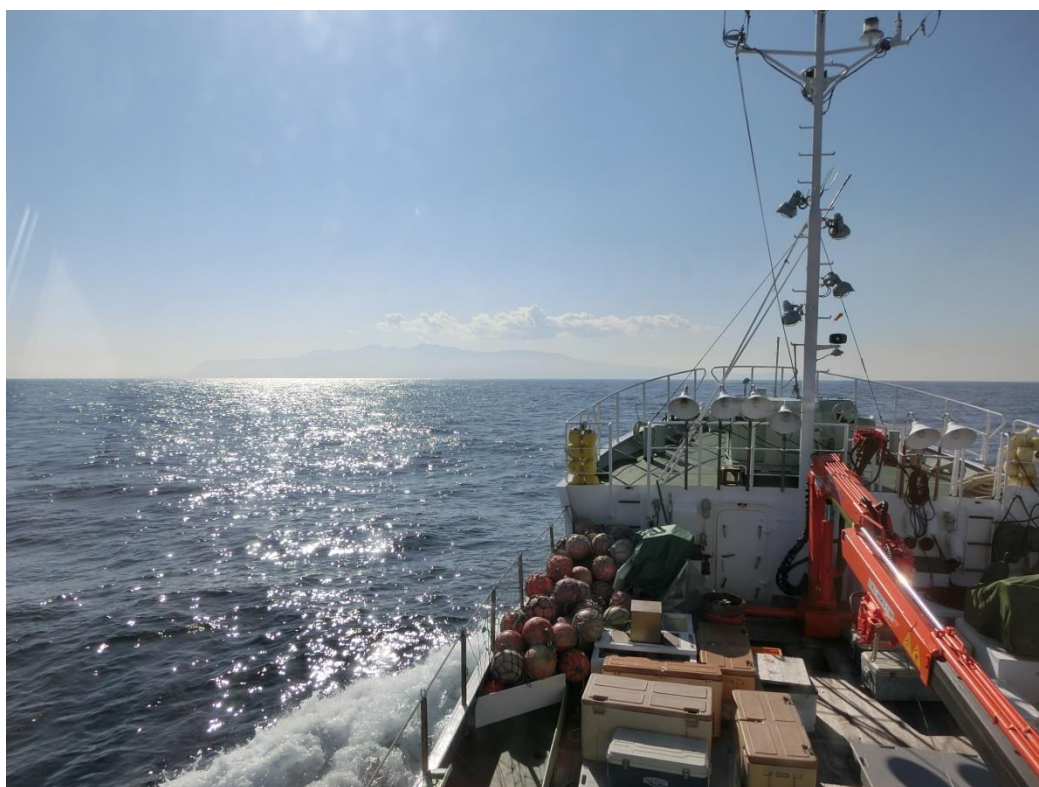


St26 では、プランク
トンネットでプラン
クTONの採集も行い
ます。



採集したプランク
TONはホルマリンで
固定して持ち帰りま
す。

St26 での観測を終え伊豆大島方面へ向けて航行中 風、雲の無い穏やかな海。

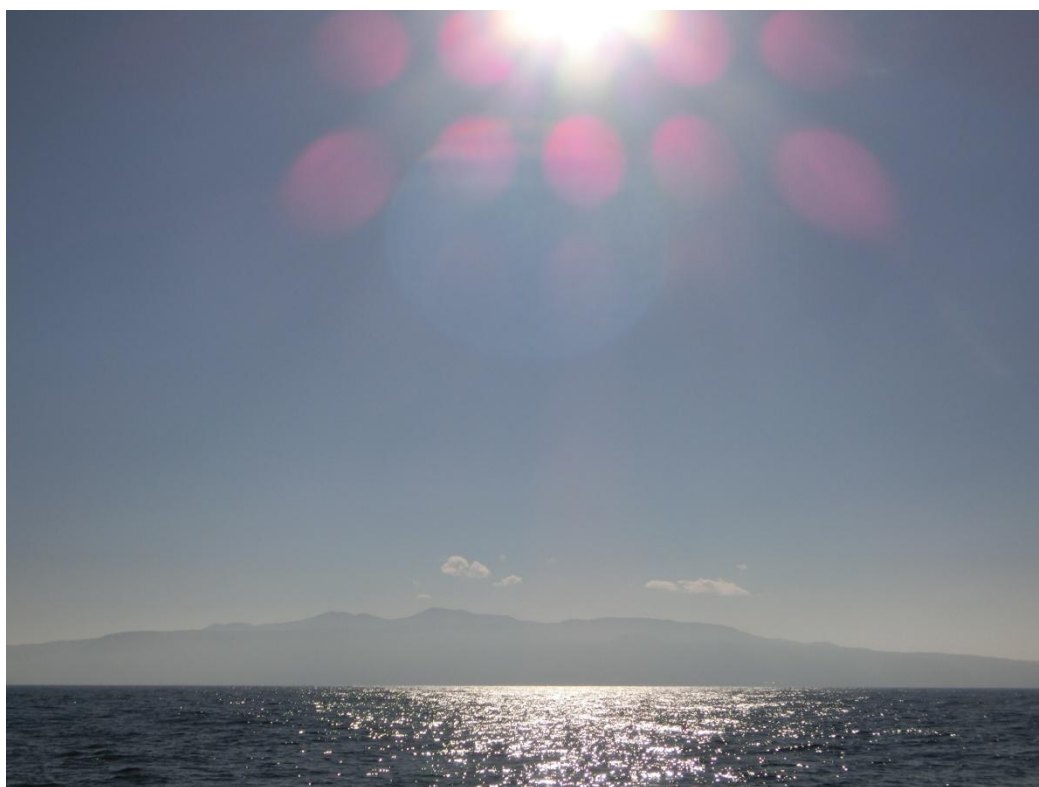


レーダーに映し出された大島です(画面上部の黄色い部分)



○は他船の映像です。

St22 付近から大島を撮影しました。



St イ付近から大島を撮影しました。



本日最後の観測点 St ニ



CTD 観測機の上げ下ろし作業



CTD 観測機の重量は約 30 kg です。
揺れる甲板上では作業も慎重に行います



本日の観測が終了し、碇泊地の伊東港に向けて航行中。

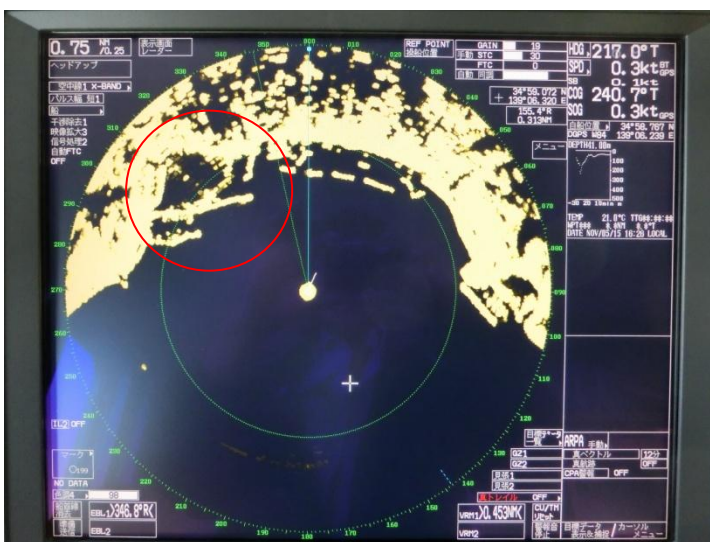


16:20 に伊東港の港外へ錨泊しました。



伊東港の南西0.3マイル
付近に投錨。

錨泊地のレーダー画像です。



○の中が伊東港の映像
中心の白い映像が
江の島丸の映像です。

船上からの伊東港の夜景。



翌日（6日）の朝が来ました。



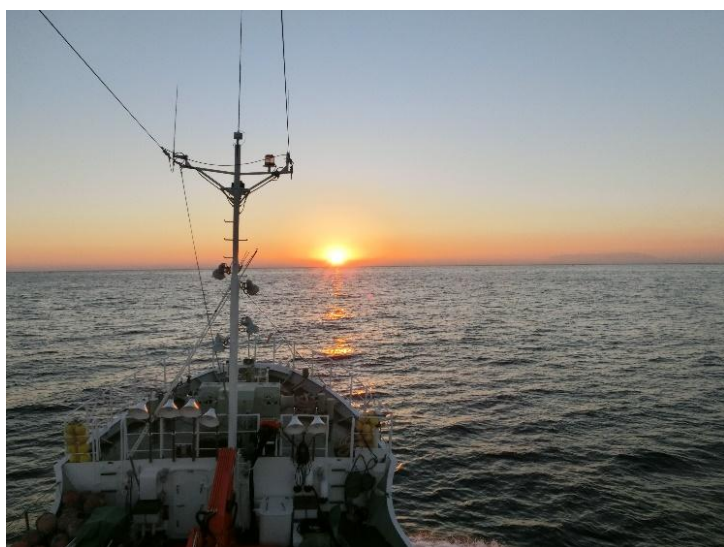
05 : 30

機関を始動
調査機器等の準備を開始し
ます。

05 : 55

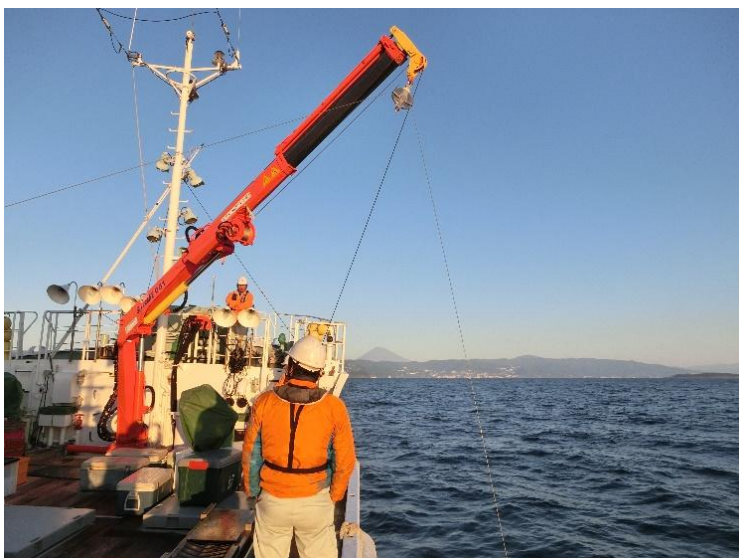
揚錨開始

揚錨終了後 St ホへ向けて航行。



行く手に朝日が輝きます。
今日も良い天気です！

06:31 富士山を眺めながら St ホから観測の開始です。



StH での観測を終えて三崎港の西口より帰港しました。



観測機器やサンプルを陸揚げし水産技術センターに運んで調査終了です。



お疲れ様でした！
引き続き明日以降、相模湾内と東京湾内の 21 定点で観測を行います。

毎月の初めは 4～5 日かけてこのような海洋観測を行っています。